

東アジア国際関係の新局面と日中関係

シンポジウム 東アジアの新潮流と日本そして北海道

2004 年 3 月 27 日 立教大学 高原明生

1. 1990 年代後半からの中国外交の変化 東アジア国際関係の最大の要因

- * 「与隣為善、以隣為伴」周辺外交の強化
- * 「多辺外交」地域における多国間外交の積極化
- * 「新安全観（新安全保障観）」協調的安全保障と総合安全保障：多角外交の理念

王毅外交部副部長「1990 年代半ばから周辺外交が全方位的発展の新段階に入った」

地域協力が周辺外交の「重点投入領域」

地域協力の核心は東アジア協力

ASEAN+3 の経済統合の深化、非伝統的安全保障分野を切り口として徐々に政治と安保対話を展開

東アジア協力の深化のため、日中韓の協調と協力を強化

傅瑩アジア局長「地域協力の重点は上海協力機構と ASEAN + 3」

2. 協調的安全保障の提唱

* ロシアとの共同声明（1996 年、1997 年）

双方（中ロ）は普遍的な意義を有する新たな安全保障観の確立を主張する。冷戦思考を放棄し、集団政治に反対し、平和的な方式で国家間の分岐と紛争を解決し、武力や武力の脅威に訴えてはならず、対話と協商をもって相互理解と相互信頼の樹立を促進し、二国間、多国間の協調と協力を通して平和と安全保障を追求しなければならないと考える。（1997 年 4 月）

「新安全保障観の中核は、相互信頼、相互利益、平等、協力」（江沢民、1999 年）

* 上海ファイヴから上海協力機構の樹立へ（1996～2001）

国境地域信頼醸成協定（上海協定、96 年 4 月）中・ロ・カザフ・タジク・キルギス
議題の広がり：国境地域兵力削減、反テロ協力、経済協力

上海協力機構樹立（2001 年 6 月）ウズベクを加える

中国の評価：新安全保障のモデル機構 三特徴： 大国と小国が共同唱導、 安全保障先行、政治、経済、文化などに発展、 互惠協力を実現

* ASEAN 地域フォーラムでの消極姿勢から積極姿勢への転換

フィリピンと会合間支援グループ共同議長就任（1996 年）

* 朝鮮半島を巡る六者協議の主宰（2003 年、2004 年）

2002 年秋 小泉訪朝（9 月） 新たな核開発計画疑惑（10 月） 中国六者協議受容へ

2003 年 1～2 月 北朝鮮への送油三日間停止？ パウエル訪朝 銭其琛訪朝？

IAEA 理事会、北朝鮮の核問題国連安保理付託決議、中国も賛成

2003 年 4 月 北京で米朝中三者協議

8 月 北京で六者協議

2004 年 2 月 北京で六者協議

* なぜ協調的安全保障を受容したのか

ソ連の解体と国境を接する国の増加

冷戦後の米国一極集中型国際秩序の出現、中国の台頭 孤立の危険

中国の新軍事戦略と軍隊建設方針（1993 年）防衛範囲の拡大、科技集約軍隊へ
東南アジア諸国の対米アプローチ

ミスターフ礁の占拠（1995 年 2 月発覚）

日米同盟強化（日米共同宣言 1996 年 4 月）

李登輝訪米（1995 年 5 月）、台湾解放向け軍事演習（95～96 年春）

経済の台頭とあいまって、中国脅威論を引き起こす

朝鮮半島の非核化と戦争の回避

地域の軍事バランスの崩れ

発展のための安定の維持、脱北者・難民の回避

対米関係のカードとしての北朝鮮への影響力行使

3．総合安全保障の受容

* 経済安全保障概念の受容（1997 年末）

銭其琛「東南アジア金融風波から明らかになったのは、経済安全保障が安定と発展
の重要構成要素だということ」(ASEAN 設立 30 周年祝賀大会)

* ASEAN + 3 の積極活用へ（特に 1999 年後半以降）

自由貿易圏提唱

政治と安全保障の対話と協力強化を提唱

中国 ASEAN 非伝統的安全保障問題に関する協力宣言（2002 年 11 月）

麻薬、武器輸出、海賊、テロ、国際経済犯罪、コンピューター犯罪など対処
東南アジア友好協力条約加盟（2003 年 10 月）

* なぜ総合安全保障を受容したのか

アジア金融危機や非伝統的脅威の増大に見られるようなグローバル化のリスク拡大

4．多角的な周辺外交 = 多層的な地域協力枠組形成 その推進要因

冷戦後の米国一極集中型国際秩序の出現とそこにおける孤立の危険

ソ連の解体と国境を接する国の増加

アジア金融危機や非伝統的脅威の増大に見られるようなグローバル化のリスク

経済成長がもたらした責任ある地域大国としての自信

東アジアにおける「独り勝ち」状況が生む中国脅威論

朝鮮半島における核危機の勃発

5．日中関係

* 日中関係の現状

経済交流の拡大深化

2003 年の貿易総額 1324.3 億ドル、対中・台・港を合わせると対米より大きい

2002 年より輸出の大幅増（2002:28.2%, 2003:43.6%）

「政治は冷たく、経済は熱い」(?)

* 諸問題

歴史：首相の靖国参拝、遺棄化学兵器、教科書など

安保：米中間の戦略的対抗

台湾：李登輝訪日、WHO など国際機関加盟問題、FTA など

経済：貿易摩擦、知的所有権問題、リコール・不快広告など

社会：中国人による犯罪、日本人集団買春、西安寸劇事件など

* 21 世紀の日中関係

歴史：日本では近代史を、中国では現代史をもっと教えよ

歴史を知り、その教訓を忘れない アジアと付き合う最低条件

反日意識を再生産する愛国主義教育は問題

安保：東北アジアの多国間安保枠組みを創設せよ

日米安全保障条約との組み合わせ

台湾：陳水扁僅差で再選 台湾の民意は総意として当面「現状維持」

台湾の将来を決めるのは台湾人のアイデンティティの行方

経済社会：日中双方のコンプレックスを解消せよ

日本人 経済、社会発展に優越感、文明・伝統、国際的地位に劣等感

中国人 文明・伝統、国際的地位に優越感、経済、社会発展に劣等感

「新思考対日外交」の摸索

中国の新しい言説「日本はアジアの誇り、謝罪問題は解決済、安保理常任理事国に」

胡錦濤「中国の新中央指導集団は日本との善隣友好関係の発展を高度に重視して

いる。日本側と共に努力し、各領域で全方位友好協力関係の発展を積極的に促

進したい……戦略的高度から中日関係の重要性をとらえ、双方の共通利益を不

断に拡大すべき。両国の指導者は、歴史を鑑とし、未来に向かい、長期的な視

点を持ち、大局を考慮し、中日善隣友好関係の長期的安定的そして健全な発展

を共に推進せねばならない。特に歴史問題を慎重に処理し、戦争被害国の人民

の感情を再び害することはくれぐれも慎まねばならない」(2003 年 10 月 20 日

バンコクでの小泉・胡会談にて)

日本側は、中国の政治状況を理解し、「親日」勢力の足を引っ張らないように

共同プロジェクトの構想実施

東アジア共同体 (経済 + 政治・安保)

中国東北旧工業基地再開発

NGO 交流、学生・市民交流